

聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響 (その5)

岡 田 明

前報までは主として文節をもとにしてN番目ごとの削除を実施して来たが、それらは主として叙述面の読解を分析したことになる。

本報告では、全くちがった立場からクローズ法を使用し、また別の読解力テストも合わせて施行し、聴覚障害児の節意、大意、主題の理解力を分析することを研究の目的とした。

読解力はクローズ法と読解力テストで調べた。G-P分析 (good-poor analysis) の結果は、クローズ法でよい成績をとっていた者は読解力テストでもよい成績をとっていたことを明らかにしている。

場面、大意、主題の把握力の乏しい聴覚障害の中学生の多いことが特に指摘された。

目 的

わたくしは今までに聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響を研究するにあたって、今までに文節削除による原文と組替え文に対するクローズ反応の比較(日心43回大会)、文脈の位置によるクローズ反応の分析(特教17回大会)、1文節削除ならびに1文字削除の影響(教心23回大会)、単語の文脈的制約(特教19回大会)、文中における文字ならびに文節単位の予測(特教20回大会)などを報告してきた。

クローズ法は理解度や読み易さを測定する測度である。文章には多くの単語が配列されている。その場合前出のことばの傾性や遷移確率などをもとにして、次のことばを推測し、適切なことばを表出することが、かなりのクローズ単位を生産することになる。ゲシュタルト心理学の立場からは閉合の法則が適用される。かくのごとくクローズ法は、原文を部分的に削除しそれを読み手に与え、読み手に削除部分を適切な文字や語で完成させるものである。

これらは Taylor, W. L.¹⁴⁾の考え方を要約して示したものであるが、筆者は制約には遡及的な効果も働くものと考えている。

ところで読解が完成するには、まず叙述面を読み始めなければならない。そこでは文字や単語を理解し、その結びつきのきまりに従って正しく読み進めなければならない。その過程で“場面”の意識が発生してくる。そこでは他の場面とは違うぞという意識とともにその区分された場面の内容が追求される。さらに読みすすめなければ文章全体の意味に意識が向けられる。それが大意である。そのころには作者の言いたいこと、つまり主題 main ideas が追求され、一応読解が終了する。

今までは主として、文節をもとにしてN番目ごとの削除を実施してきたのであるが、そこには主として叙述面の読解を問題にしてきたと言ってよい。

今回は、全くちがった立場から、クローズ法を使用し、また別の読解力テストも合わせて利用し、被験者の場面、大意、主題の理解力を分析することを研究の目的とする。ここでは特に両テストの成績の対応から分析をすすめる。

方 法

場面、大意、主題を被験者がどのように理解しているのかを読解力テストとクローズ法で調べる

のが基本的な方法論である。

被験者は都内のろう学校中等部生徒 22 人である。平均聴力損失は 90 dB 以上。知能は担任教師により正常と認められたものである。

テストはクローズ法をまず実施し、40 分の時間制限法によりおこなった。ついで“場面”のテスト 40 分、最後に“大意”と“主題”のテスト 40 分を実施した。

クローズ法の場合の教示と問題の一部を示せば次のようになる。“場面”では各段落のキー・ワードとなるような文節を 3～4 個削除し、それらをつなげれば節意となるようになっている。そこでは文間の制約力が要請される。

主題は文の最後にあるので“大意”と“主題”では、最後の段落の中のそれにあたる文節を削除し問題を構成した。

“場面”の読解力テストの教示は「つぎの文章のそれぞれの文章のあらすじを書きなさい。①から⑦まで別別に書きます。」であった。クローズ法の場合の文章と同じ文章を 7 つの段落で区切りそれぞれの文章の節意を求めたわけである。

“大意”のテストでは、文章全体を提示し、次のような教示により理解力をテストした。

「つぎの文を読んで後の問題に答えなさい。／本文／この文章全体のあらすじをかきなさい。」

“主題”のテストでも同じ方法で、教示は「作

者は何を言おうとしていますか。」であった。

結果と考察

結果をみるとクローズ法でも読解力テストでも学年間にあまり差が見られなかったのですべてこみで処理することにした。

クローズ法での正答が比較的少なかったので、読解力テストでまず G-P 分析を実施した。そして場面、大意、主題での Good 群 4 人と Poor 群 4 人を分けそれをクローズ法の得点と比較した。

場面の問題は多いので大意と主題での各群の応答をまず示すと次のようになる(表 1 参照)。これは付表 3 より選択した。

クローズ法の成績は完全正答を 4、同義語またはそれに近いもの 3、誤答に近いもの 2、無応答 1 として評価した(表 2、表 3 参照)。これは付表 1 より選択した。

Good 群全体では $M=2.3$ $S.D.=1.1$ 、Poor 群全体では $M=1.3$ $S.D.=0.7$ であった。読解力テストで成績のよい群の方がクローズ法でも成績がよいという傾向が出ている ($t=1.25$, $df=6$, $t>0.3$)。

クローズ法でよい成績をとるためには、節意や大意や主題をよく把握しておくことの必要性が示唆される。

望ましい読解では文間の制約が利用されるべき

Table 1 C—P 群の大意と主題

COOD 群	この文章のあらすじを書きなさい	作者は何を言おうとしていますか
A	言い表わすことばもよく考えて話すことがだいじである。	みんなが人ののはなし合いでもよく心得ていなくてはならないことがある。
B	みんなによく聞いているようにたのしく話し合うために言い表わすことばもよく考えて話すことが必要である。	これらのことをよく心得ていなくてはならない。
C	友達どうしが集まってする話し合いは楽しく仲良くしながら話し合うこと。	みんなが楽しく話し合うためにはよく心得ていなくてはならない。
D	仲まはずれのことや仲がわるいばかりでの感想でした。	みんなが楽しく話し合うためにはめいめいがこれらのことをよく心得ていなくてはならない。
POOR 群		
A	このおしゃべりや話し合いや聞くのもたくさんある。	「このおしゃべりや話し合いは必要が、あるばかりだな。」と、言ったと思います。
B	話をする事。 毎日のこと。	作文は作る人をしてもらいます。 ことばのことをしています。
C	楽しいものであること。	順序
D	なお話す場合には話すことがら門くから。	

Table 2 G群のクローズ反応

正 答	A		B		C		D	
おしゃべり	はなし	3	楽	2	話	3	仲まはずれ	2
楽しくは	少く	2	少く	2	楽しくは	4	仲がい	2
しかたを	適当を	3	するため	3	相手を	3	みんなを	3
人にも	人の	3	わかる	2	中から	2	話の	2
話題を	人の	2	人の	2	人を	3	人が	3
心得て	して	3	して	3	考えて	3	仲が	2
第一には	楽しくなって	3	楽しく	3	その他に	3	みんなは	3
ならない	なった人の	2	なった	2	する	3	なった	2
意志を	はなしが	2	こと	3	人を	2	話	3
なかまはずれの	たのしくない	3	たのしくない	3	ふざける	3	仲まはずれ	3
第二には	話し合って	2	話し合って	2	それから	3	僕たちは	2
中断	こし	2	して	2	じゃま	3	話	2
とちゅうに	とくに	3	時に	3	のに	3	みんなは	2
中断	楽しくない	2	はな	3	じゃま	3	やる	2
第三には	人の	2	人で	2	それで	3	人は	2
するな	なかま	2	なかま	2	しない	3	なる	2
きらい	こと	2	声	2	にくい	3	たの	2
話す		0		0	その	3		0
順序に	立て	2	きて	2	話の	2	仲ま	2
考えて	おぼえる	3	わかる	2	分かるように	3	いくら	2
話す	人の	2	がんばった	2		0	話	3
話し合い	聞く人	2	聞く	2	話	2	聞きた	2
これらの	きく	2	話す	2	話す	2	かけた	2
心得て	たのしくない	2	見て	2	聞いて	2	みて	2

Table 3 P群のクローズ反応

正 答	A		B		C		D	
おしゃべり		0	行く	2	遊んで	2	話し事	3
楽しくは	わから	2	ちよど	2	遊べ	2	する	2
しかたを	自分の	2	自動車	2	話し合い	2	なんでも	2
人にも	ための	2	自動車	2	しるし	2	話し	2
話題を	人を	3	花	2	かみ	2	所	2
心得て	話し合い	2	家	2	して	3	し	2
第一には	あの人の	2		0	友だちが	3	話しの	3
ならない	いけない	2		0	つまらない	2		0
意志を	話しは	2		0	遊ぶ	2		0
なかまはずれの	この	2		0	遊べない	2		0
第二には	けれども	2		0	話し合い	2		0
中断	話	2	人	2	いて	2		0
とちゅうに	ことと	2	ことば	2	遊べない	2		0
中断	話し	2		0	わからない	2		0
第三には	あの人は	2		0	なかよし	2		0
するな	話さない	2	機会	2	遊ぶ	2		0
きらい	にくい	3		0	耳	2		0
話す		0		0	遊ぶ	2		0
順序に	この	2	運動会	2	食べ	2		0
考えて	聞いて	2	聞	2	かんがえ	3	きく	0
話す		0	きど	2	たのしい	2		0
話し合い		0		0	なん	2		0
これらの	いう	2	話	2	かんがえだ	2		0
心得て	聞いて	2	聞	2	かんがえて	3		0

であるが、聴覚障害児ではそれをあまりせず前後の単語を手がかりにしているものが多い。

なおこの文章のあらすじは、話し合いでは興味のある課題を選び、なごまはずれにせず、ひとの話は中断せず順序よく話し、聞きとれるように話すことが大切だということである。

主題は話し合いでは心得るべきことをよく心がけて話をする事、ということである。

場面の節意、大意、主題をクローズ法で見ると、そのような教示をもとに、文章全体で一つだけの削除をした方がよいように思われる。そうでないと文の制約 constraints でもクローズ法が完成するからである。Poor 群でもクローズ法で成績の比較的よい C 児がいたのである。ちなみに、アメリカで最も多用されている 1981 年版 "The Degrees of Reading Power" by M. W. Kibby はクローズ法による標準読書力テストであるが各文章で削除は一つである。

場面や大意や主題などの理解力をクローズ法でみるには、そのような力がみられるところを削除して問題を構成し評価も文章全体ないしは、文間の制約という観点から評価しなければならない。また教示も例えば "主題を求めています。主題にふさわしいことばを の中に入れなさい。" というようにすべきであろう。

なお、クローズ反応で主題や大意の反応はどうだったかという分析は今後に残されている。

場面、大意、主題の把握力の乏しい中学生がいることは、この面の指導の必要性が大いに叫ばなければならないであろう。

文 献

- 1) 岡田 明, 高橋信雄, 都築繁幸, 保坂真理: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(1)——原文と組替え文に対するクローズ反応の

比較——日心 43 回大会論文集, 昭 54

- 2) 岡田 明他: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(2)——文脈の位置によるクローズ反応の分析——特教 17 回大会論文集, 昭 54
- 3) 岡田 明: クローズ法について 日本読書学会 23 回大会論文集, 昭 54
- 4) 岡田 明: 弱視児の読みに関する実証的研究 学芸図書, 昭 54
- 5) 岡田 明他: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響, 17 巻, 3 号, pp. 1~8 特教研, 昭 55
- 6) 岡田 明: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 3), 特教 18 回大会論文集, 昭 55
- 7) 岡田 明: 精薄児の読みに及ぼす文脈の影響, 教心 22 回大会論文集, 昭 55
- 8) 岡田 明: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 2), 心身障害学研究, 5 巻 1 号, pp. 31~36, 昭 56
- 9) 岡田 明: 聴覚障害児の心理と教育, 学芸図書, 昭 56
- 10) 岡田 明: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 4), 教心 23 回大会論文集, 昭 56
- 11) 岡田 明: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 5), 特教 19 回大会論文集, 昭 56
- 12) 岡田 明: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 3), 心身障害学研究, 6 巻 1 号, pp. 49~78
- 13) 岡田 明, 緒方佐千子: 聴覚障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 4), 心身障害児の読みに及ぼす文脈の影響(その 4), 心身障害学研究, 7 巻 1 号, pp. 11~19
- 14) Taylor, W, L. Cloze Procedure: A New Tool for Measuring Readability. Journalism Quarterly 1953, 30. 415-433

Summary

An Experimental Study of Effect of Contextual Constraints upon the Reading by Hearing Impaired Children (5)

Akira Okada

The aim of the present study was to analyse the effect of contextual constraints upon the reading by the hearing impaired. To achieve the purpose the writer used the modification of the cloze procedure created by W. L. Taylor and comprehension tests in which meaning of paragraph, general ideas and main ideas were measured by two tests.

Subjects were 22 deaf children in secondary school level from a deaf school whose hearing loss was above 90dB and whose intelligence normal.

Data were analysed by good-poor analysis. Good group in comprehension test was superior even in the cloze tests. In order to gain high score in the test of cloze procedure subjects should have high skills in comprehension of paragraph meaning, general ideas, and main ideas.

問
題
一

つぎの文の [] をてきとうなことでうめなさい。

友だちどうしが集まってする話し合いは、楽しいものである。けれども、どうかすると、そういう友だちどうじの話し合いにさえ、その中に、ちっとも楽しくない人ができてくる場合がある。かってに [] しているいく人かは楽しくても、なかまはずれになつた人はちっとも [] ない。なかまはずれができるのは、話題が適当でないためである場合もあるが、話し合いの []

[] 心得ていないためである場合も少なくない。話し合いには、その場にいるどの [] 興味のある [] 選ぶことがだいじである。そのうえに、なお [] いなくてはならないことがある。

[] 「なかまはずれに [] ことである。話の進行につれて、だれでも、少なくとも、そうだからそうではないとか、賛成だとか不賛成だとかという [] 示すようにしないと、なかまはずれになってしまう。 [] 人がひとりあっても、よい話し合いにはならない。

[]

付表1 クローズ反応

正 答	I	O	Y	H ₁	K	M	S	H ₂
おしゃべり	はなし	楽	話	ふざけも	ふざげ	かい物を		遊んで
楽しくは	少なく	少なく	楽しくは	おもしろく	おもしろく	し ら		遊 べ
しかたを	適当を	するため	相手を	も の		言 葉		話し合い
人にも	人 の	わかる	中から	大すきな	大好きな	よ く		しるし
話題を	人 の	人 の	人 を	所	所	と		か わ
心得て	し て	し て	考えて	きかない人も	い て	ら な		し て
第一には	楽しくなって	楽しく	その他に	友達は	友たちは	言 葉		友だちが
ならない	なった人の	なった	する	なる	なる	くやくかった		つまらない
意志を	はなしが	こ と	人 を	所 を		と		遊 ぶ
なかまはずれの	なのしくない	たのしくない	ふざける	ほかの友	ほかの人を	お友達		遊べない
第二には	話し合って	話し合って	それから	友 達		始めに		話し合い
中 断	こし	し て	じゃま	きくも		な ら		い て
とちゅうに	ときに	時 に	の に	ところから		の で		遊べない
中 断	楽しくしていない	は な	じゃま	つ ぶ		聞 いて		わからない
第三には	人 の	人 で	それで	それで	それで	今まで		なかよし
するな	なかま	なかま	しない	やる		する		遊 ぶ
きらい	こ と	声	にくい	にくい	い て	たこと		耳
話 す			そ の	やさしく		間		遊 ぶ
順序に	立 て	さ て	話 の	できるだけ		こ と		食 べ
考えて	おぼえる	わかる	分かるように	できるだけ		見 て		かんがえ
話 す	人 の	が ん ば っ た				を		たのしい
話し合い	聞く人	聞 く	話	話 し	話 す	こ と		な ん
これらの	きく	話 す	話 す	話 す	話 し	し た		かんがえた
心得て	なのしくない	見 て	聞 いて	きかない人も	聞 いて	見		かんがえて

正 答	T	O ₁	Y	S	O ₂	T	UM	US
おしゃべり	ふざけたり	人の話	話し事	仲良く	何に	行動を	遊び	行く
楽しくは	楽しく	考え	する	悪く	悪く	おもしろく	つまら	ちよど
しかたを	考えの		なんでも			仲間はずれ	行英	自動車
人にも	考えの		話し			おしゃべり	一年間	自動車
話題を	人		所	人を		人を	こうえん	花
心得て	らな		し	人が		友達が	しな	家
第一には	どうしても		話しの	けれども		けんかで	みんな	
ならない	なる			しない		なった	何を	
意志を	人			指		人が	名詞	
なかまはずれの		人の話している		友達の	友達	いやがる	名前とだれ	
第二には				次は		皆は	こんど	
中 断	しん				何	話	かぜ	人
とちゅうに	人は			ところを	けれども	ところで	おわかれ	ことば
中 断	しん			むし		わがまま		
第三には	だから					それで		
するな				する		話す		機会
きらい	ずき			つかれ		たい		
話 す				討		遊ぶ		
順序に	わかる			話を		話す	B	運動会
考えて	聞いて	人を	きく	ゆっくり	聞く	分かって	ことば	聞
話 す	やる	聞く			何	言う		きど
話し合い	お 話	言う		話		皆	話	
これらの	やる	聞く		聞く	聞く	話す		話
心得て		きこえ			わかる	考え	見て	聞

正 答	N	T	Y	H ₃	I	M
おしゃべり		さみしい	仲まはずれ	話の合い	とこ町に	話し合い
楽しくは	わから	少	仲かい	い け	なんでも	気 が
しかたを	自分の	困った	みんなを	友 達	みんなは	悪いこと
人にも	ための	好 き	話 の	工 場		好きな
話題を	人 を	の で	人 が	言 葉		希 望
心得て	話し い	した	仲 が	き る	し て	し て
第一には	あの人に	友達と	みんなは	さめして	みんなは	友だちが
ならない	いけない	なった	なった	少なく	心 に	
意志を	話しは	こ と	話	あ る	話	こ と
なかまはずれの	こ の	さみしい	仲まはずれ	おさまひやく	つまらない	知っている
第二には	けれども	皆 は	僕たちは	いない		友だち
中 断	話	別	話	見	し て	話
とちゅうに	ことと	だった	みんなは	わからない	人 が	人が少ない
中 断	話 し	大 事	や る	見		話
第三には	あの人	今日は	人 は	だから	だれの	友だち
するな	話さない	いない	な る	行っ	します	わかる
きらい	にくい	た い	た の	なよう	分 け	こ と
話 す		電 気		作	気 に	人 間
順序に	こ の	話 し	仲 ま		何	体 操
考えて	聞いて	わかる	いくら		聞 き	わかる
話 す		な い	話	あ る	何	な い
話し合い		必 要	聞きた	とおして	思っ	わからない
これらの	い う	い い	かけた		書 く	わからない
心得て	聞いて	友 達	み て		思	わかって

付表2 節意の全反応

	I	O	Y	H ₁
①	友だちどうしがあつまってる話し合いはたのしいものである。	友だちどうしが集まってする話し合いは楽しいもの。	友だちどうしが集まってする話し合いが楽しくなるようにすること。	友達となかまはずれになった人はちょっとおもしろくないこと。
②	なお心得ていなくてはならないことがある。	その場にいるどの人にも興味のある話題を選ぶこと。なお心得ていなくてはならないこと。	興味のある話題を選んでやること。	人の興味のある話題をえらんで心得ていなくてはならないことがあること。
③	そうだとかそうではないとか賛成だとか不賛成だとかという意志を示すようにしないとなかまはずれになってしまう。		なかまはずれにしないで、みんなと一緒にやらないといい話し合いにならないこと。	なかまはずれなくみんなでなかよく友達になって話すこと。
④	こうしてひとはなしのこしをおるのは、はなし合いのしかたを心得ないわがままというほかはない。		人の話のこしをおるのは、話し合いの仕方をお心得ないわがままということ	話し合いのしかたをお心得ないわがままというほかはないこと。
⑤	ほかの人に話すききをゆるすようにしなくてはならない。	話す機会をひとりじめに、するなという。	話す機会をひとりじめにしないで、みんなでも楽しく話し合いが出来るようにする事。	ほかの人にわかるように機会をゆるすように、みんなの気持ちよく発言すること。
⑥	みんなよくききとれるようにする。	みんなによく聞きとれるように聞く。	くわしく話せるようにすること。	みんなによくききとれるように話すと。
⑦	よく心得ていなくてはならない。	みんなが楽しく話し合うために	楽しく話せるようにする事。	楽しく話せるようになること。

	K	M	S	H ₂
①	友だちどうしが集まってする話し合いは楽しいものである。	みんなで、よろしくで遊んだり、勉強をしたり、して楽しかった。		遊ぶこと。
②	好きな興味のある話題を選ぶことが大事である。	荷物やトラックや汽車に運んだりして選ぶ	話題を選ぶ。	話し合うこと。
③	賛成だとか不賛成だとかという意志を示す。	道を歩いていたら、お客様に会って「こんにちは」とあいさつをしました。	そうだとかそうではないとか賛成だとか不賛成だとかというしを示すようにしないと。	なかまはずれにならないこと。
④	みんなの話し合いを中断してしまう人がある。			人の話を中断しないこと。
⑤	ほんとうの話し合いが成りたつ。			話す機会をひとりじめにするなこと。
⑥	みんなによく聞きとれるようにゆった。	みんなによく聞きとれるようにゆったりと話す。	聞きとれる。	考えて話すこと。
⑦	楽しく話し合うため。	めいめいがこれない。	みんなが楽しく話し合うために。	話し合うこと。

	T	O ₁	Y	S
①	友だちといっしょに集まって話す話し合いでは楽しいのである。けれど、どうかやると、そういう友達どうしの話し合いにさえ、ちっともおもしろくない人ができることがある。	友だちどうしが集まって話す話し合いはけれどもどうかすると、そういう友だちどうしの話し合いにさえ、その中にもちっとも楽しくない人ができてくる。	話をする事です。	友だちどうしが集まって楽しくお話をすることが楽しいである。仲間はずれずれすとつまらない。仲間はずれはどつうやって作るかと言うと、話題が適当でないためである。話し合いのしかたを心得ていないためである場合が少なくないのである。
②	では、話し合いには、その場にいるどの人には、きょうみのあるもんだいをえらぶことがだいじです。	話し合いにはその場にいるどの人にも興味のある話題を選ぶことがだいじである。	いろいろな話ができるとは、事です。	話し合いをする時は興味のある話題を選ぶことが一番大事である。なお心得ていなくてはならない。
③	一には、「なかまはずれにならない」こととあります。なかまはずれの人がひとりあったら、よい話し合いには、やらなければならない。	賛成だとか不賛成だとかという意志を示すようにしないと、なかまはずれになってしまう。		仲間はずれにしないようにするにはいいことである。話の進行につれて、だれでも少なくとも、賛成だとか不賛成だとかという意志を示すようにしないと仲間はずれになってしまうので仲間はずれの人が一人あってもよい話し合いにならないのである。
④	「ひとの話をことわりしない。」ことである。だから、ひとの話をのこしをおるのは、話のやりかたを心得ないわがままというではない。	みんな熱心に話し合っているとちゅうに、いきなり。		
⑤				
⑥	みんなによく聞きとれるようにゆったりと話すことが必要です。			
⑦	めいめいがこれらのことをよく心得ていない。			

	O ₂	T	N	UM
①	話題が適当でないためである場合もあるが話し合いのしかたを心得ていないためである場合も少なくない。	友だちが集まって、お話をするのが、楽しいものである。けれども、仲間はずれになった人は、楽しくない。	友だちが、色々な話し合いをしても楽しい。けれども、この仲間はずれが、ちっとも話さない。	友だちと、とても、遊ばないので、楽しいくない。一人であつまらないよ。
②	興味のある話題を選ぶことがだいじである。	きょう味のある話題を選ぶことが大事である。	興味のある大事な話題を選んでいる。この心得ていないことでした。	なんでも、遊んで、人が、少ないからつまらないと思います。
③		賛成だとか、不賛成だとかという意志を示すようにしないと、仲間はずれになってしまう。	これは「仲間はずれにならない」ことは、あつても、興味がある。この賛成か、不賛成か注意を示すようにした方がいいと思う。	人がなかまであるですよ。だから、みんな、少ないから、人が、大きくなかもしれないです思います。
④		皆熱心に話し合っているとちゅうにいきなり別の話題をもち出して、これまで進んできていた、皆の話し合いを中断してしまう人があります。	この話し合いの席に、みんなが、熱心に話し合ってもどんどん進んでいきたくて思っている。	人が、少なから、みんなでなかまをしよう。だから、少なくなつたので、かわいそうねと思います。
⑤		私達は、たいてい話ずきで、聞きざらである。自分で、しゃべっていないと気がすまない。出来るだけ、短めにして、なるべく早く、話す機会をゆずるように。	このおしゃべり型の人が、いた。話し合いや討議は成りたない。	
⑥		くわしく、ゆったりと話すことが必要である。	とても必要な「話す」ことは大切だと思っている。	人が、きこえるので、かおが見える。
⑦		楽しく話し合うために考える。	楽しい話し合いは心得てもいみがか、ないと思います。	

	U S	T	Y	H ₃
①	友だちどうしが集まって話す話し合いは楽しいものである。	初めはなかまになったので人が多くなったけれどもケンカをしたいや話しが合わなくなったり仲間はずれになって人が少なくなりました。	仲まはずれはよくない。	友達に話し合いと、何のどうした。毎日におしゃべりをしないようにとためとしました。話を見て聞こえるといいました。
②	その場にいるどの人にもきょうろのある話題を選ぶことがだいじである。	興味のある話題を選ぶのでだいじ事があるです。	仲まがいい人はよく話になっている。	工場に人の話をしました。人にいっしょをしてしました。
③	話の進行につれてだれでも少なくともそうだとかそうではないとか賛成だとか不賛成だとかという意志を示すようにしないとなかまはずれになってしまう。	なかまはずれになった事、ばかりので、友達は賛成や不賛成をする事になった。	仲まがいい人がたくさんいるととても楽しいです。	友達に仲間を遊んでしました。ときどき来るたといけないでもつまらないでした。
④	話し合いの席でみんな熱心に話し合っているとちゅうにいきなり別の話題をもち出してこれまで進んでいたみんなの話し合いを中断してしまう人がある。	皆はわがまもとしてばかりです。熱心に話し合いのしかたを心得ないわがまもとしてばかり。	ひとの話を中断しないの がいいです。	一人の行ってしなようとつまらない。
⑤	そういうおしゃべり型の人がいると話し合い大ぜいの話し合いではそれをできるだけ小出しにしてみじにしてなるべく早くほかの人に話す機会をゆずるようにしなくてはならない。	大人になったら機会を働いたりと将来をしたい。	おしゃべりや話や聞きたり大切です。	
⑥	◦またみんなによく聞きとれるようにゆったりと話すことが必要である。	話す場合は順序に組みたて、話すことが必要である。		
⑦	めいめいがこれらのことをよく心得ていなくてはならない。	毎日毎日話し合いに皆は楽しくするためです。		興味に話をしたよう。

	I	M
①	みんなはなかまにあります。一人でケンカやなかまやあるのでいろいろあります。	仲まはずれをしないで仲よくしたいと思います。
②	たれの人は2人でぼくはおじゃめりをしてはっがいです。	あまりおしゃべりをしなくて楽しくありません。
③	ぼくはうそやなかまはずれにはかりです。ぼくはふさけるのやあります。いじめるやらんぼうややめた。	悪いことを、話をしないで、正しく、話してよいと思います。
④	先生はみんなでポケーッというはっがりです。	わがままか、うそつきか、ごかいが、必要がありません。
⑤	先生にきびしい来たからまじめにやる。あまり先生はぼくはすきです。	
⑥	先生も来たからお話をおもえよと思いません。	
⑦	先生もぼくもお手に来わからからこまる。	

付表3 すじと主題の全反応

	この文章のあらすじをかきなさい	作者は何を言おうとしていますか
I	言い表わすこともよく考えて話すことがだいじである。	みんなが人の話し合いでもよく心得ていなくてはならないとことがある。
O	みんなによく聞いているようにたのしく話し合うために言い表わすこともよく考えて話すことが必要ではる。	これらのことをよく心得ていなくてはならない。
Y	友達どうしが集まってする話し合いは楽しく仲良くしながら話し合うこと。	みんなが楽しく話し合うためにはよく心得ていなくてはならない。
H ₁	話すことができない人をおしえて、うまく行ったら、みんなでもよく話し合うこと。	どんなことをしたか、ほかの人はわかるようにない人
K	話し合いにさえ、その中にちっとも楽しくない人がでてくる場合がある。	友だちどうしが集まってする話し合いは楽しいものです。
M	また、みんなによくききとれるようにゆったりと話すことが必要である。	「なかまはずれにならない。」 「ひとの話を中断しない」 「話す機会をひとりじめにするな。」
S	「ひとの話を中断しない。」	みんなによく聞きとれるようにゆったりと話すことが必要である。
H ₂	楽しいものであること。	順序
T	○むずかしい。 ○どうしても仲間はずれと言え、いじわるだと思ふ。おしゃべりをしたら、友達どうしになるんだから、と思ふ。	○1 「ひとの話を中断しない。」としている。 2 「話す機会をひとりじめにするな。」のこと。 ○仲間はずれは、わるいことを言おうとしています。

	この文章のあらすじをかきなさい	作者は何を言おうとしていますか
O ₁		○友だちどうしが集まってする話し合いは楽しいものである。けれども、どうかするとそういう友だちどうしの話し合いにさえ、その中に、ちっとも楽しくない人かはでてくる場合がある。かっへにおしゃべりをしているいく人かは楽しくても、なかまはずれになった人はちっとも楽しくはない。 ○友だちどうしが集まってする話し合いは、楽しいものである。けれども、どうかすると、そういう友だちどうしの話し合いにさけれども、どうかするとそういう友だちどうしの話し合
Y	○話をするごと。 ○毎日のこと	○作文は作る人をしていもいます。 ○ことばのことをしています。
S	仲間はずれのことか書いてある。どうしたらいいか書いています。	なお話す場合には、話すことかを聞く人にわかりいいような順序に組み立て、言い表わすこともよく考えて話すことか大事である。また、みんなによく聞きとれるようにゆったりと話すことか必要である。
O ₂		よく聞きわけて話を進めるところに話し合いか成りたつ。
T	友達が集まって、話し合いは楽しいものである。けれども、仲間はずれになった人は、ちっとも楽しくはない。賛成だとか、不賛成だとかという意志を志すようにしないと、仲間ははずれになってしまう。私達は、たいいて話さずきで、聞きざらいである。話す場合には、話す順序に考えて話す事か大切である。	友達は、仲間ははずれにならないように、自分で、しゃべっていない気がすまないというような人さえある。出来るだけ、て短くにして、なるべく早く、他の人に話す機会をゆずるようになってはならないと言おうとしています。
N	このおしゃべりや話し合いや聞くのたたくさんある。	「このおしゃべりや話し合いは必要か、あるはかりだ。」と、言ったと思ふ。

	この文章のあらすじをかきなさい	作者は何を言おうとしていますか
U M		とても、みんなで、遊ばないのでつまらないよと思います。毎日のなんでもないような話し合いでも、みんなが楽しく話し合うためには、
U S	なお話す場合には話すことから門くから	
T	<ul style="list-style-type: none"> ◦よく聞きわけて語を進めるところに話し合いが成り立つ。 ◦いつも自分でしゃべっていないと気がすまないというような人さえある。そういうおしゃべり型の人があると話し合いや討議は成したたない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦聞く人にわかりいいような順序に組み立て言い表わすことば。 ◦みんなによく聞きとれるようにゆったりと話すことが必要である。
Y	仲まはずれのことや仲がわるいばかりので感想をした。	みんなが楽しく話し合うためにはめいめいが、これらのことをよく心得ていなくてはならない。
H ₃	「話す機会をひとりじめにするな」	なお、話す場合には、話すことからを、聞く人にわかりいいような順序に組みたて、言い表わすことばもよく考えて話すことがだいじである。
I	おじゃめりをしている人ができる。	聞く人にわかりいいような順序に組みたて。
M	<p>第一には、「なかまはずれにならない」ことである。</p> <p>第二には、「ひとの話を中断しない」ことである。</p> <p>第三には、「話す機会をひとりじめにするな」ということである。</p>	毎日のなんでもないような話し合いでもみんなが楽しく話し合うためには、めいめいがこれらのことをよく心得ていなくてはならない。